

経営比較分析表（令和元年度決算）

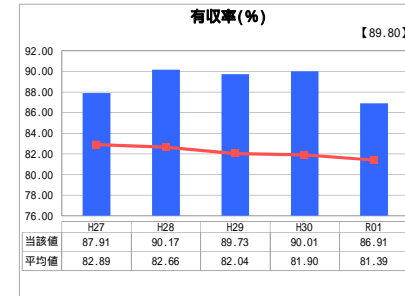
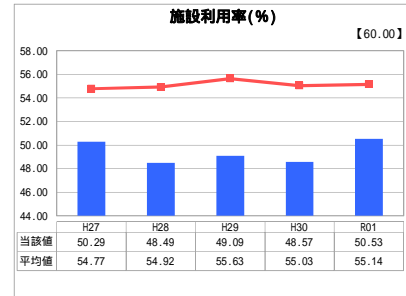
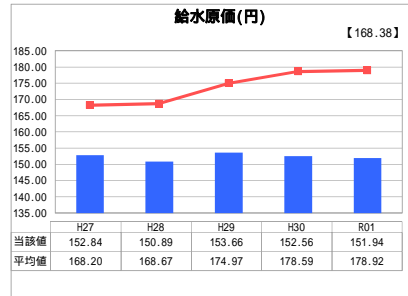
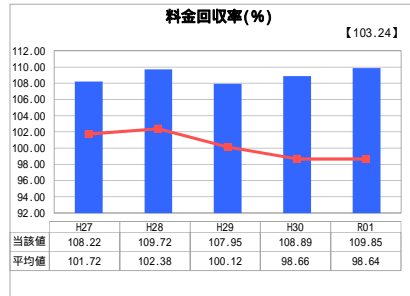
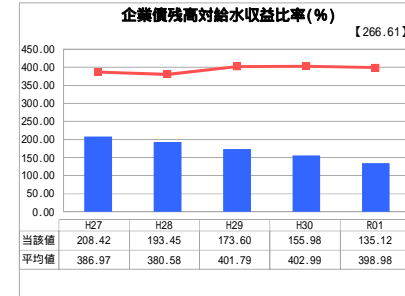
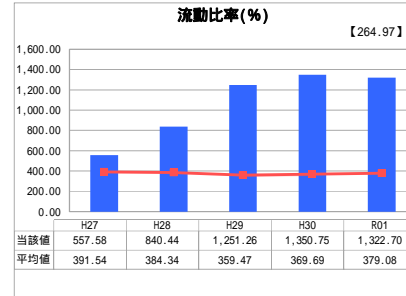
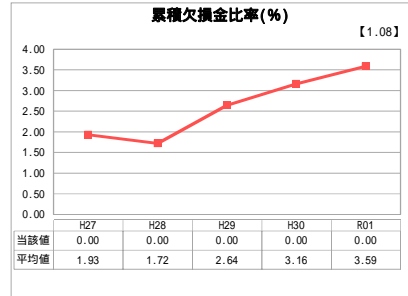
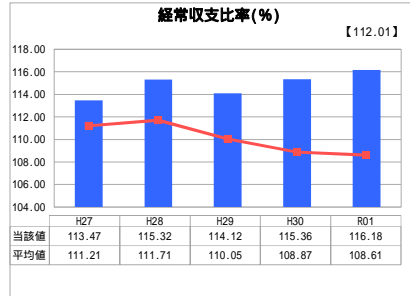
佐賀県 小城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.77	40.14	3,410	

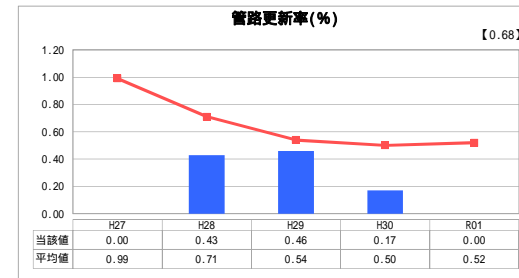
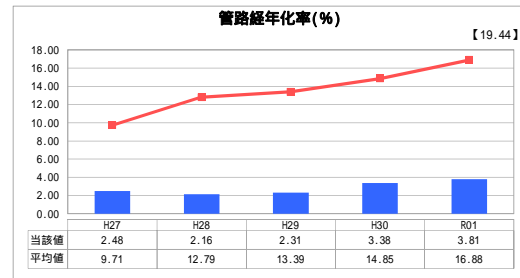
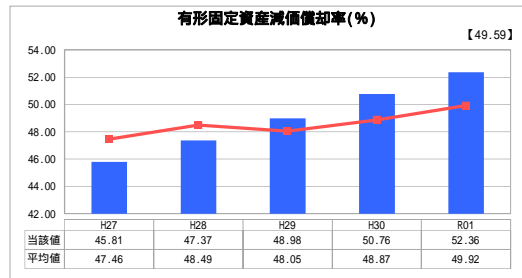
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,327	95.81	473.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,106	18.31	988.86

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超えて推移しており、累積欠損金も発生しておらず健全な経営状況を維持できている。

流動比率、企業債残高対給水収益比率も良好な状態で推移しており不安はないが、今後、設備更新等を行う場合には急激な変化を起さないよう中長期的な更新計画を立てる必要がある。

料金回収率は100%を上回って推移しているが、平成20年度末をピークに給水人口が減少してきており施設利用率の低下が続いている。漏水事故の多発による有収率の低下など、効率的な運営を維持するためには適正規模での施設の更新計画が求められる。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は50%を超え平均値を上回っており、類似団体と比べ老朽化が進んでいる。管路経年化率は低い、住宅需要の高まりなどにより短期間で急速に整備拡大された経緯があり急激な更新需要の高まりに備えた計画的な整備・更新をしていく必要がある。そのため、令和2年度にアセットマネジメントの策定に着手した。

全体総括

給水人口の減少、節水機器の普及等により需要は減少傾向にあるため給水収益も伸び悩んでいるものの、過去に需要拡大を意識して整備された施設が過大となりつつあり、施設維持にかかる経費についても削減の余地が限定的となっている。

将来にわたり経営の安定を維持していくためにも、水道ビジョン及び経営戦略を策定し、今後の施設更新や耐震化に向けて投資と財政のバランスをとっていくようにしたい。